



びっく★まーく

# 編集スタッフのおすすめ

このコーナーでは、情報・図書コーナーの中から、本紙スタッフがピックアップした本を紹介しています。

この他の本も、ぜひご利用ください。※書籍下の番号はセンターでの検索番号です。



[100-4]

## 女は後半からが面白い

2014年 集英社  
坂東眞理子 上野千鶴子(著)

『女性の品格』、『おひとりさまの老後』の著者が対談。人生を振り返り、仕事恋愛子育て老後などを存分に語り合う。21世紀の日本の超高齢化社会を「支え合う社会」とし、今必要なのは「連帯」である。(かかし)



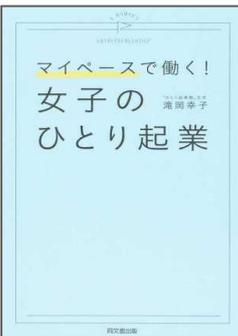
[200-5]

## お父さんがキモい理由を説明するね

2014年 泰文堂  
中山順司(著)

仲良しだったはずの愛娘が中学生になるとよそよそしい。意を決して、娘にマジトークを提案。

四十路父さんと十三歳の女子中学生の90日にわたる奮闘記録。やって損はない親子の対話の手引き。(ルナ)



[800-2]

マイペースで働く！

## 女子のひとり起業

2015年 同文館出版  
滝岡幸子(著)

気軽に続けられる商売のアイデアが多岐にわたり書かれている。子育てや、介護しながら続ける商売、ダブルワークのよさなど、多くの実例が参考になる。(さっと)



[1100-3]

## 難民高校生

絶望社会を生き抜く「私たち」のリアル  
2013年 英治出版  
仁藤夢乃(著)

若者自身や、彼らを取り巻く大人たち向け。理解に苦しむ若者を見る時の盲点を教えてくれるトリセツ的な本。変化へのチャンスや夢は、私たち自身の中にあると思う。(さっと)

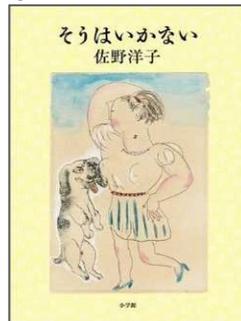


[1200-3]

## 老後に快走！

2015年 PHP研究所  
半藤末利子(著)

飼い猫のこと、おせち料理を贈ってくれる友人のこと、旅先でのちょっとした出来事。何気ない日常をユーモアたっぷりに描き出す。年を取るのも悪くないかも、と思わせてくれる。(むめも)



[1200-3]

## そうはいかない

2010年 小学館  
佐野洋子(著)

筋力衰えて鳥居のように開いてしまった母の脚。一度も好きになれなかった母だけれど、その老いを受け入れようとする著者。動物に向ける眼差しや友との日常など、愛しき生が綴られた物語エッセイ。(みっと)

### 新着図書リスト (一部抜粋)

図書名	検索番号	著者	出版社
結婚と家族のこれから 共働き社会の限界	100-3	筒井 淳也(著)	光文社
人生の答えは家庭科に聞け!	100-6	堀内 かおる(著)、南野 忠晴(著)、和田 フミ江(イラスト)	岩波書店
ふんばれ、がんばれ、ギランバレー!	300-7	たむら あやこ(著)	講談社
セーラー服の歌人 鳥居	1100-3	岩岡 千景(著)	KADOKAWA
だれか ぼくを ぎゅっとして!	2000	シモーナ・チラオロ(著)、おびか ゆうこ(訳)	徳間書店

### 編集後記

保育園入園の壁、小学1年生、4年生の壁、放課後の子の居場所など、働く母を待ち受けるいくつもの不安と困難。女性が安心して社会に進出できる、切れ目のない支援の充実を願いつつ…。あつ、♪ふるさと♪の曲が流れてきた。もう5時。子どもたち、笑顔でお家に帰ったかな? あしたも元気だね! (´◇`) (みっと)